

<p>【本校の学校教育目標】 自らを鍛え、豊かに伸び合う 社会力を身に付けた児童の育成 「気付き・考え・実行する」熊っ子</p>	<p>【本年度の重点目標】 ◇学校経営 ①小規模特認校としての地域に開かれた教育課程(体験活動)の推進(積極的な改善・開発) ②学校教育目標の具現化に向けた共通認識・共通実践によるチーム力アップ ◇教育指導 ①主体的に自分の考えを構築し、表現・交流しながら学びを深めることができる授業づくり ②身についた学力を活用して、友達や保護者や地域の人とつながり、より良い学校を作ろうとする体験活動の推進</p>
---	--

[4：大変良い 3：よい 2：あまりよくない 1：よくない]

領域	項目	評価指標・自己評価	職員	学校関係者評価	学校関係者評価を踏まえた改善策	
組織	教育目標等の周知と協働体制	学校教育目標や重点目標を意識して目的意識をもって取り組む。	3.3	<ul style="list-style-type: none"> ・合言葉「気付き、考え、実行する」が浸透していることはすばらしい。先生方の意識の高さを感じる。 ・今後は小中一貫した教育目標を検討していきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇研修・実践を通して、職員間での共通理解をさらに深める。 ◇義務教育9カ年を見通して中学校との連携をさらに深め、山田中学校区としての「小中一貫教育」を具体化する。 	
		○合言葉「気づき、考え、実行する」が浸透しており、主体的に学び、日常生活の中でも生かそうとする意識を育てることができた。				
	運営	教育課程の実施	主たる担当の校務分掌で、1か月前に提案して積極的にリーダーシップを取る。	3.0	<ul style="list-style-type: none"> ・先生方はよく協力されながら計画をたてられている。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇この3年間の経験を踏まえ、年間の提案スケジュールにもとづく毎月の運営委員会での確実な確認を通して、状況に応じた提案を行う。 ◇取組はその都度総括し、内容を事績に記入して次にいかす。
			○コロナ禍への対応として、具体策の見直し等を含めた企画・準備を進めたが、現状に沿った新たな提案という部分では不十分な点もあった。			
運営	教育課程の実施	週案を活用して授業時数を確保し、めあての達成状況を記入することにより、質的管理の推進を図る。	3.7	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムマネジメントを、担任レベルでPDCA サイクルに則って機能させることが重要。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇引き続き、確実な週案作成・確認・指導助言の充実を図るとともに、達成状況の記入に基づく質的管理(授業自己評価)を推進する。 	
		○行事変更や変動的なスケジュールの中でも、各担任等とも適切な週案の作成・活用がなされ、質的管理の推進が図られた。				
総合所見		体験活動は「めあて」を明確にし、児童自ら意欲を持って主体的に学ぶ学習活動とする。	3.6	<ul style="list-style-type: none"> ・とても充実しているが、全てが元に戻るといったことはないのではないか。これからの社会に合った活動にしていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇各活動を通して身に付けてほしい力を事前に提示する等の工夫を通して、学習・活動の意図と児童の「めあて」との整合を図り、支援の充実を図る。 	
		○実施の目的や育てたい力等を確認しながら実施方法等の検討を進めたことで、児童の意欲的な活動を促すことにつながっている。				
総合所見		○中止せざるを得なかった活動等も、保護者や地域の理解・協力の下、全職員の協働により、内容を新たに作り直しながら徐々に実施できるものを増やしてきた。次年度は、本年度の経験を生かし、ただ単に元に戻すのではなく、新たな創造を念頭に、更に円滑な校務運営の推進と教育活動の充実に努める。				

領域	項目	評価指標・自己評価	職員	学校関係者評価	学校関係者評価を踏まえた改善策
学 力 向 上	学力向上を目指す授業づくり	「熊小授業の進め方(めあて[児童自ら発表]→見通し→一人学び→友だち学び→まとめ→「わ・が・や」タイム→次時は～)」を徹底し、児童に学び方を身に付けさせる。	3.4	<ul style="list-style-type: none"> 学力検査の結果は毎日の授業の積み重ねの成果だと思う。1 単位時間の流れが定着できていることが一番。 学力調査結果を見て、熊小の先生たちの熱心な指導に敬意を表したい。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇「わ・が・や」タイム(メタ認知的自己評価)についての理解を深め、児童が自己の学びの高まりを自覚できるようにする。 ◇間接指導時の児童主体の学び方の工夫改善を図る。
		○授業研修や日常の授業づくりをとおして、1 単位時間の学びの流れは定着してきており、教師・児童ともに構えが身に付いてきている。			
		丁寧な文字指導(ノート指導、作文指導、ひらがなや漢字の指導等)を行い、児童に身に付けさせる。	2.7	<ul style="list-style-type: none"> 家庭でも取組を一緒に行うための模索が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇根気強く、ていねいに文字指導を継続する。ていねいに書くことの良さを児童が感じられるような取組を行う。
	○学習内容の定着を意識するあまり、文字指導等が不十分になってしまう状況があり、十分な変容が見られない児童もいる。				
	学ぶ意欲・規範意識の醸成	学習規律を確立させる。(チャイム・聞き方・発表の仕方・姿勢・忘れ物・筆箱の中身)	2.9	<ul style="list-style-type: none"> 児童はいつでも明るく元気で、発表の機会もきちんと取られている。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇学習規律のよさと必要性を児童とともに確認し、実践への意欲を高める。 ◇学校全体で当たり前に行えるように、日常的な児童の意識化を促す手立てを工夫する。
		○学習規律については、概ね身に付いているが、集中力や気持ちのコントロールに難がある児童もあり、継続した取組が必要である。			
		立ち止まったあいさつ、心に響く返事、適切な言葉遣い、後片付け、学校の約束を徹底し、児童の規範意識を醸成する。	3.2	<ul style="list-style-type: none"> 登下校時など、地域の人たちに対してきちんと挨拶ができていた。 食事のマナーも意識してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇引き続き日常的な指導を充実させ、児童の実践意欲を高めるとともに、スキル面(実際の行動・態度等)の指導も根気強く行う。
		○日常的な指導(声かけ)を通して、継続的に意識化を図っていることで、児童の意識はあるが、言葉づかいなどでは課題も多い。			
	学力の基礎を培う活動	家庭学習定着率90%以上を達成し、書き直しややり直しを徹底させる。	3.9	<ul style="list-style-type: none"> 目標が90%以上に対して、結果がほぼ100%というのはすばらしい。保護者の協力もあってこそだと思う。 自分のための学習という意識を高める取組は重要。キャリア教育と関連付けることで効果が上がると思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇家庭学習による成果を確認できるようにする等して、取り組むことのよさを実感させるように工夫する。 ◇「自分のための学習」という意識を高められるよう、「自学」をさらに充実させる。
		○宿題の提出は、ほぼ100%に近く、書き直し等も休み時間にしっかり取り組んでいるが、「自分のための学習」という意識の弱い児童もいる。			
		児童の実態に応じた補充学習により、弱点を克服する。	3.4	<ul style="list-style-type: none"> 子ども自身が課題等を実感できるような分析や、タブレットを活用して自分の課題にチャレンジするような取組もあるとよい。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇一人ひとりの「苦手をなくす」ために、共通の課題だけでなく、個々の課題等に取り組めるようにタブレット端末の活用等の工夫を行う。
		○補充学習の時間の計画的な設定・実施はできたが、主体的に取り組めていない児童もいる。			
読書活動を質的量的に高める。(めざせ〇〇冊・〇〇ページ、おすすめの本、家庭読書)		3.5	<ul style="list-style-type: none"> 読書の取組は、今後ますます注目されると思う。情報過多の時代に生きる子どもたちに、情報の選択、活用する力の基礎を身に付けるために、読書活動をさらに推進していくことが大切。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇児童の委員会活動を活用し、読書を促す取組を企画・実施させる等、児童の主体的な取組を活性化させ、読書活動への興味・関心を高める。 	
○給食を食べ終わった後の時間を中心に、熱心に読書する姿が見られる。てんとう虫号も積極的に活用している。しかし、個々による差が見られる。					

学 力 向 上	家庭・地域 との連携	家庭学習頑張りカード保護者コメント90%以上を達成する。	3.3	・家庭学習も日々の積み重ねで、学力向上には必要なものだと思う。「頑張りカード」の活用（保護者コメント）は大変だと思うが、ぜひ続けてほしい。 ・家庭学習における家庭の役割を発達段階に応じて明らかにする必要がある。	◇家庭学習についての保護者向け啓発文書の作成・配付、保護者との懇談等を通じて、児童の頑張りに対する関心を高めてもらい、学校と家庭の連携の強化を図る。
		○カードの記入・提出は、ほぼ定着している。取組のねらいや効果についての啓発を通して、さらに保護者の理解を図る必要がある。			
		通信等を通して、保護者・地域に情報を発信する。	3.7	・「熊っ子だより」は熊ヶ畑全世帯に配布されているので、子どものいない家庭にも様子がよく分かり、良いと思う。 ・熊っ子だよりを通して学校の各種行事を地域で共有できた。	◇学校での取組や児童の様子を発信するだけでなく、保護者・地域の感想・意見を寄せていただく工夫を行い、双方向の連携のさらなる充実を図る。
		○毎週の学級通信、毎月の学校だより等を通して、各種行事・活動や日頃の児童の様子を紹介し、学校の様子を発信することができた。			
総合所見	<p>○共通実践を通して、学力向上に向けた各種取組は一定の成果を上げている。今後も、複式による授業という特殊性を踏まえ、より児童の主体性を育む学習スタイルの確立を目指す。また、「学習基盤づくり」の更なる充実に向け、保護者・家庭との連携を深めたい。</p> <p>○コミュニティースクールとしての熊ヶ畑小学校ということで、学校の存在意義を意識しながら地域との連携をさらに深め、地域の願いも意識した学校教育活動の充実を図っていく。</p>				

領域	項目	評価指標・自己評価	職員	学校関係者評価	学校関係者評価を踏まえた改善策
体 力 向 上	運動の 習慣化	外遊び等を奨励し、体力アップシートを活用して児童の体力向上を図る。	2.8	・コロナ禍で体力向上の領域は難しかったと思う。日常的な取組を工夫して継続してほしい。 ・他の項目に比べて自己評価が低くなっている。熊小の強みを生かした、効果を実感できる実践にしていってほしい。	◇「体力アップシート」を活用しやすいように環境を整え、日常的に自身の取組状況を確認し易くするなど、さらに自身の体力や運動への関心を高める。
		○「竹馬週間」「持久走週間」「なわとび週間」を設定し、中休みを中心に全校で屋外運動に取り組むことができたが、日常的な取組は不十分。			
体 力 向 上	基本的な 生活習慣 の定着	「早寝・早起き・朝ごはん・少ゲーム」の取組を推進する手立てを講じる。	2.8	・基本的な生活習慣を身に付けることはとても大事なこと。家庭内でも同じ意識にたってほしい。	◇特に早寝や少ゲーム、情報モラルについては、外部講師による講演なども行い、児童・家庭への啓発を、より積極的に実施する。
		○PTA 活動「新」家庭教育宣言や中学校区での「家庭学習週間」の取組を連携し、保護者の協力のもと取り組んだが、時間のコントロール等で、なかなか自立的な取組にならない児童もあった。			
総合所見	<p>○コロナ禍ということだけではないが、体力づくりには課題が残った、今後は積極的に取組を工夫することが必要である。</p> <p>○基本的な生活習慣の確立と情報モラル教育については、PTA・保護者・家庭との連携をさらに強化し、取組の充実・推進を図る。</p>				

領域	項目	評価指標・自己評価	職員	学校関係者評価	学校関係者評価を踏まえた改善策 ^(4/5)
豊かな心の育成	よりよい人間関係の構築	自ら範を示し、日常の挨拶や返事、丁寧な言葉遣いについて指導し、児童相互・児童と教師の好ましい人間関係を構築する。	3.5	<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちのコミュニケーション能力の高さはすばらしい。 全校あげての「いいところ見つけ」はとても素晴らしい取組だと思う。 	◇学校として目指す姿を児童と教師で共有するとともに、コミュニケーションによる相互理解をさらに充実させ、相互の信頼をより高める。
		○各職員による日常的な指導と合わせて、全校による「いいところ見つけ」等の取組を通して、好ましい人間関係が構築を目指して取り組んだ。			
	道徳教育の充実	特別の教科道徳の時間において教科書を活用し、指導と評価を充実させる。 ○年間計画に基づき、各価値項目に偏りがないように指導を進めるとともに、児童の感想やふり返りをもとに、学習の成果を見取ることができている。	3.6	<ul style="list-style-type: none"> 道徳の時間を、「考える場」「議論の場」となるような指導の工夫を研究してほしい。 	◇より児童が主体的に考え表現する道徳の時間となるように、教材研究を深めるとともに、児童に日常生活とのつながりを意識させ、実践意欲をもたせるようにする。
いじめ防止	いじめ防止	いじめ防止、早期発見・対処について常に気を配り取り組む。	3.7	<ul style="list-style-type: none"> いじめの早期発見、早期対応に加え、積極的生徒指導の視点を取り入れた、いじめの起こりにくい集団づくりを展開してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇丁寧な児童の見取りを継続するとともに、各種アンケートや調査の結果の分析と考察をから、日常の積極的な生徒指導を充実させる。 ◇必要に応じて個別のケース会議を実施し、組織的な対応を図る。
		○児童の様相に常に目を配り、積極的な生徒指導も心がけている。児童間のトラブルもその都度取組を重ね、解決を図ることができている。			
総合所見	○全体的には、自分・まわりの友だちを大切にしているが、個々によっては、課題等の克服が未だ成っていないところも見られる。気持ちの行き違いからのトラブルもあり、ソーシャルスキルトレーニングなどの実践も必要とされている。次年度は、自他を思いやる心のより豊かな成長を目指して、さらなる道徳教育や体験活動の充実・活用と、ケース会議を組織するなどして個への対応を推進することも必要である。。				

領域	項目	評価指標・自己評価	職員	学校関係者評価	学校関係者評価を踏まえた改善策
主題研修等	校内研究の充実	国語科複式・少人数授業に係る主題研究を積極的に推進する。	3.9	<ul style="list-style-type: none"> 研究指定発表会、お疲れさまでした。複式の授業は、準備を含め色々大変だと思うが、実績を積み重ねて取り組んでほしい。 小学校の研修の充実は中学校でも参考にできることは多い。今後も小中連携した授業研修の充実につなげたい。 	◇中学校区での交流も踏まえつつ、本校としての、児童の「主体的・対話的で深い学び」を導く学習指導の在り方の究明を柱に、引き続き研究に取り組む。
		○指導主事を招聘しての研修を継続的实施し、嘉麻市研究指定発表会を軸に、よりよい複式授業のあり方を柱にした研究を行うことができた。			
主題研修等	一般研修の活性化	積極的な校外研修への参加や文献による資料収集を行い日常の教育活動に生かす。	2.9	<ul style="list-style-type: none"> 社会の変化に合わせて、色々なテーマに対する研修が必要だと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> 還流学習会を、職員相互による学び合いの場として位置づけ、互いに積極的に学ぶ機会を、さらに充実させる。 ◇長期休業期間等をもちいて、一般研修の充実を図る。
		○授業づくりについての研修が中心となり、それ以外の事項に対する校内及び校外研修は不十分となった。			
総合所見		○研究指定発表会を念頭に、指導主事の指導の下、全学級での検証授業等を通して、研究主題についての研究に取り組むことができた。次年度は、これまでの成果・課題を踏まえながら研究の更なる発展と、現代のニーズに沿ったテーマに入れた一般研修を積極的に深めていく。			

領域	項目	評価指標・自己評価	職員	学校関係者評価	学校関係者評価を踏まえた改善策
環境構成等	安心・安全の確保	児童の安全確保・安全管理に努め、緊急対応マニュアルを熟知し、実働できるようにする。	3.5	<ul style="list-style-type: none"> 様々な危機に対応・対処する力を身に付けるよう、先生方も計画的に訓練や研修を行うことが必要。 	◇これまで取り組んできた対策等について見直し・整理するとともに、演習形式の訓練等で、職員間で協働して緊急時の対応に取り組むことができるようにする。
		○年度当初に緊急対応の訓練や避難経路の確認等を行うなど、安全への意識付けを図るとともに、毎月安全点検を実施し、事故等なく過ごせた。			
環境構成等	学びを支援する環境整備	教室や廊下の掲示物や作品には、学習の振り返りや達成感、発展を促す工夫を行う。	3.7	<ul style="list-style-type: none"> 講堂までの廊下を通っただけで、学習の足跡がよく分かった。熊っ子たちの生き生きとした様子がうかがわれた。 自己肯定感を高める方法を知りたい。熊っ子祭りでの中学生へのインタビューなど参考にしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇成果物の展示を工夫して達成感を味わわせるとともに、他の児童の動機付けも図れるようにする。 ◇展示物の更新や、それに基づいた表彰の機会を通して、自己肯定感を高めさせる。
		○学習の成果物等を随時掲示・展示することで、児童も互いの作品を見合い、達成感を味わったり、互いの参考にしたりすることができている。			
総合所見		○児童の安全が確保され、安心して通える・学べる学校づくりのため、今後も継続して危険個所の点検・修繕に取り組むとともに、起こりうる危険の想定やそれへの対応の準備と訓練の実施を徹底する。また、児童の学習への意欲を高め、よりよい学びを促す環境整備(掲示等の工夫・改善)にも努める。			